



日蓮宗

妙傳寺だより

法

雨

令和7年春号

感應山



妙傳寺

六月八日(日)

鬼子母神祭

午後二時



こやすきしもだいぜんじん
妙伝寺安置 子安鬼子母大善神

日々のご守護に感謝を捧げ

神力増長・身体健全を祈りましょう

毎月8日に行われる祈禱会ですが、6月のみ大祈禱会としてご守護神様への報恩感謝のお祭りを行います。

また、法楽荘厳（ほうらくしょうごん）祈禱も致しますので、ご自宅などに安置してある神様や掛け軸をお寺に持参して頂き、今後のご守護の力が強くなる様ご祈願も致します。ご家族揃ってご参拝下さい。



だいこくそんてん

大黒尊天

大黒尊天とは、ヒンドゥー教の破壊と再生を司るシヴァ神が仏教に取り入れられた神様です。

戦闘勝福の神であり、五穀豊穡、商売繁昌の神様として信仰されています。また、子孫繁栄の神でもあります。

日本では七福神の一体として親しまれ、ご家庭では恵比寿尊天（えびすそんてん）と共に安置され、多くの方々に親しまれております。



はちだいりゅうおう

八大龍王

八大龍王とは、『妙法蓮華経 序品第一』というお経にててくる八頭の龍王様を表した御像です。

お寺で龍を祀るのには多くの理由があります。まずは畜生界（動物や昆虫を含む全ての生物）を代表する神であり、ペットなどの成仏を表します。そして、龍は死者の魂を、仏界に運ぶ役割を持つ神なので、一番身近で感謝と祈りを捧げるべき神様です。

また、水を司る神様でもあることから、海、川、井戸水などで水神としても祀られます。農家の方にとっては、干ばつをさける為に、祈雨（きう）の対象として信仰されております。

みょうらんべんざいてん

妙蘭弁財天

妙蘭弁財天とは、ヒンドゥー教の「サラスヴァティー」が仏教に取り入れられた時の呼び名です。

「サラスヴァティー」は元々、川の名前であったものが神格化して女神となったもので、手に本や琵琶、水瓶などを持っていた事から、学問や音楽の神とされています。

また、経典では、諸々の病苦を取り除く役割を持つ為、仏法の守護神として親しまれています。川辺に居住していた事から、川や湖池などで祀られるようになりました。

当山で祀られている「妙蘭弁財天」は、大黒島の他にかつて室蘭にあった弁財天が沈んだ時に、明治年間に漁師が海から引き上げた際、室蘭市より妙傳寺へと寄進された事が由来であります。



妙傳寺 速報!!

昨年、妙傳寺境内に永代供養墓「久遠」が建立し、多くの方々からお問い合わせをいただきしております。お参りの仕方については現在ご相談いただいた方に個別で詳しく説明しておりますので、気兼ねなくお問い合わせください。

さて、この度のご報告は、ペット供養墓についてです。前頁でも説明したように、龍を祀っているにも関わらず、ペットなどの動物を供養する場がない。という事がきっかけで、住職が奮ってペット供養墓の建立を手掛けました。五月中旬ごろ完成予定となっております。皆様からのご相談お待ちしております。



写真は完成イメージ図です

◆ 神様豆知識

ペット供養墓建立に際して、今回は龍神様の一面について、皆様と共に学んでいければと思います。

皆様は笹で包まれたお供物、また、添えられてあるお供物をご存知でしょうか？
そうです。笹団子です。他にも牡丹餅、おはぎに添えられたりもしていますね。
なぜ、笹の葉が和菓子に添えられお供えされるのか。笹の葉に防腐蚀性、抗菌作用があるから巻かれているという理由もありますが、実は笹というのは龍神が嫌いなものの一つなのです。

中国の故事にこのようなお話があります。

ある中国の政治家が川で入水自殺をしまいました。そのことを惜しんだ人々は川にお米などを投げ入れて供養しようと思いますが、全て龍神様に食べられてしまいます。そこでお米に笹の葉を巻いて投げ入れると龍神様の姿が見えなくなった。というお話です。

笹の葉は茎から水を吸収できなくなると、葉っぱから水分を得ようとします。水というのは龍神様にとって住処であり、養分であり、命でもあります。龍神様にとって命を吸う笹の葉はとても危険な物である為、近づくとができませんのです。

先ほど記したように、龍神様は魂を運ぶ神様です。故人の魂を運ぶ最中、供えられた御供物を食べてしまう恐れがあるので、お供物には笹の葉がついている物、または、水を吸収する乾いたものが供える方が良くとされます。故人を守ってくれている龍神様への感謝の意を込めて、故人へのお供えとは別にお供物を用意すると、故人も龍神様も喜んで私たちを守ってくれると思っております。

今回は龍神様のお話でした。別の神様の豆知識も寄稿していきます。是非、お楽しみにお待ちしております。また、書いて欲しい。教えて欲しい。という事があれば気軽に
お伝えください。喜んでお聞きいたします。

六月八日の鬼子母神祭、皆様のご参拝を心よりお待ちしております。

